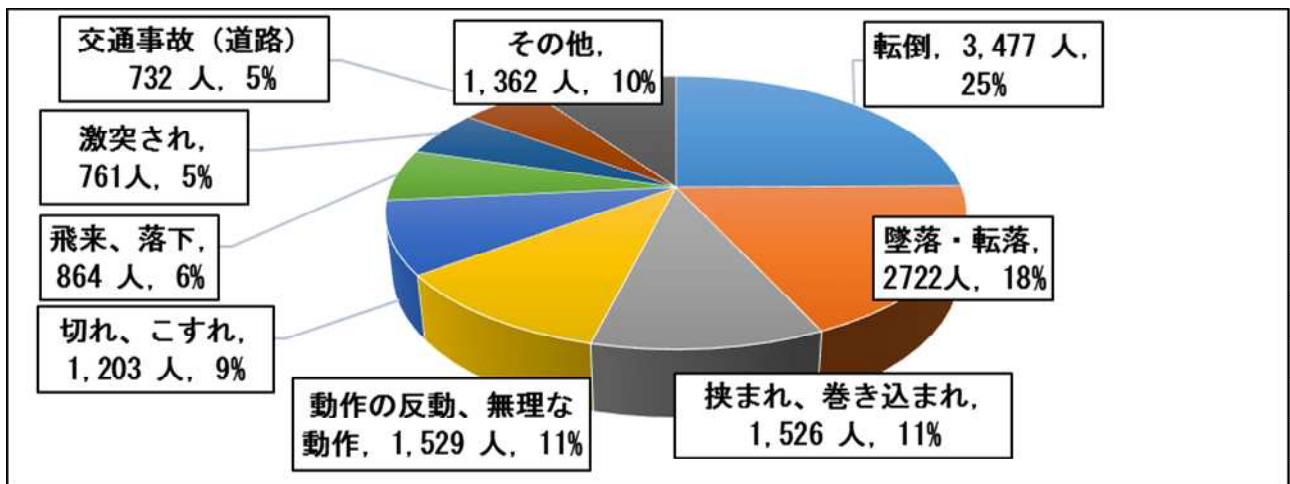


【宮崎県内】「転倒」・「腰痛」の労働災害発生状況

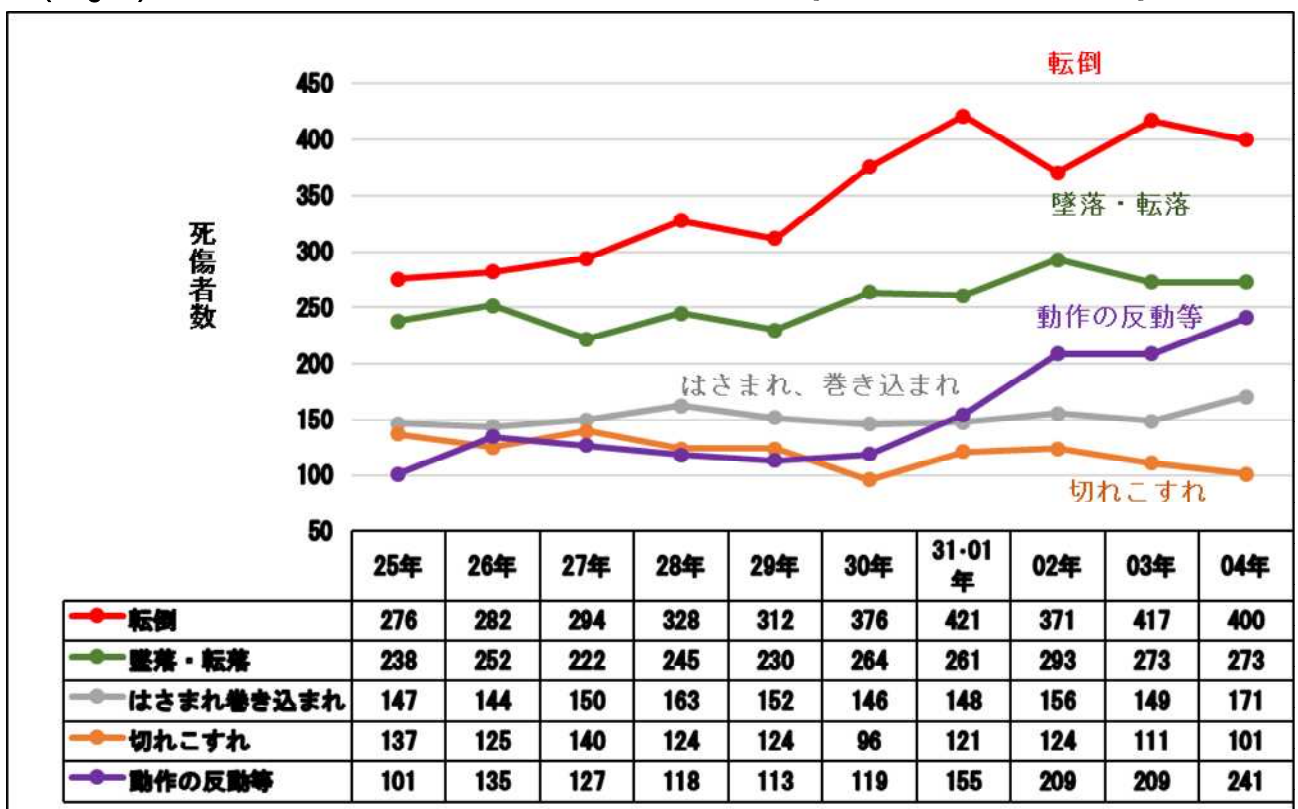
1. 宮崎県内で過去 10 年間に発生した労働災害の事故の型別とその推移

(1) 行動災害の増加
 過去 10 年間に県内（全業種）で発生した死傷災害（14,004 件）を事故の型別で分類したところ、「転倒」が最も多く全体の 25%を占める状況（Fig. 1）。また（Fig. 2）のとおり、「転倒」は令和 2 年に減少したものの、増加に転じ高止まりにある。「動作の反動、無理な動作（主に「腰痛」）」が平成 30 年以降増加している。

(Fig.1) 全業種事故の型別・死傷災害発生状況（平成 25 年～令和 4 年）



(Fig.2) 全産業事故の型別・死傷災害発生状況の推移（平成 25 年～令和 4 年）



2.宮崎県内で令和4年に発生した転倒災害の分析

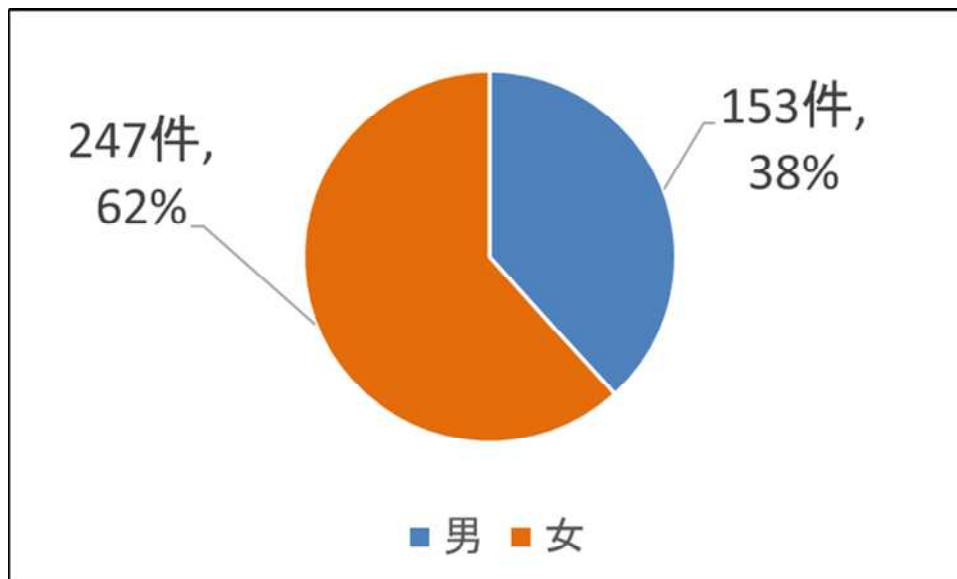
(1) 転倒災害による傷病及び休業日数

令和4年に県内（全業種）で発生した転倒災害（400件）を分析すると、男性より圧倒的に女性の発生割合（62%）が高く（Fig. 3）、特に女性の高年齢労働者に多発している。（Fig. 4）

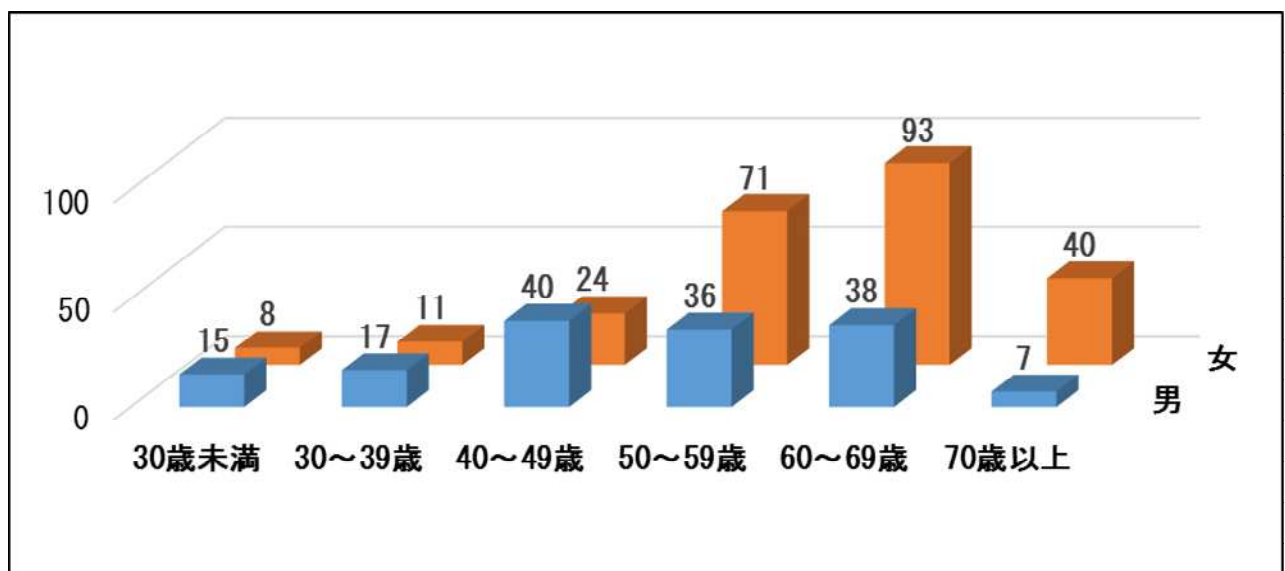
転倒災害による傷病は「骨折」が最も多く257人と全体の64%を占める状況（Fig. 5）にあり、転倒災害による休業見込期間は64%が1月以上と重傷化の傾向が認められる。（Fig. 6）

高年齢になるほど労働災害が多く発生し、男性60歳以上の被災者数（45人）は30歳未満被災者数（15人）の3倍であるのに対し、女性60歳以上の被災者数（133人）は30歳未満被災者数（8人）の17倍と格段に高い発生率となっている。（Fig. 4）。

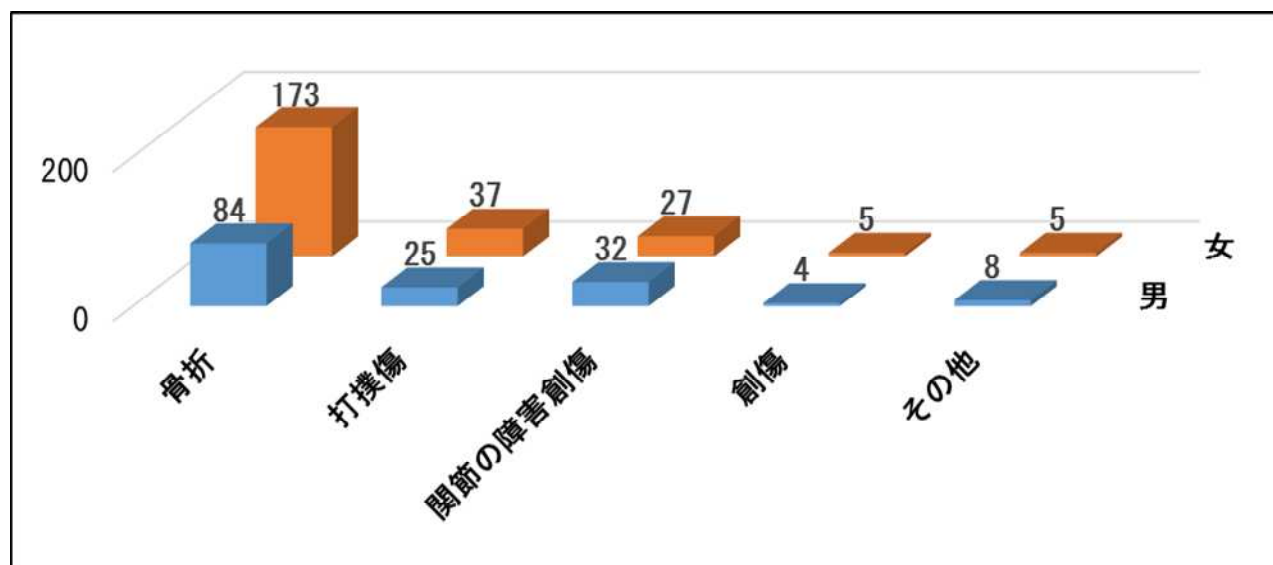
(Fig. 3) 転倒災害 性別 死傷災害発生状況 (令和4年)



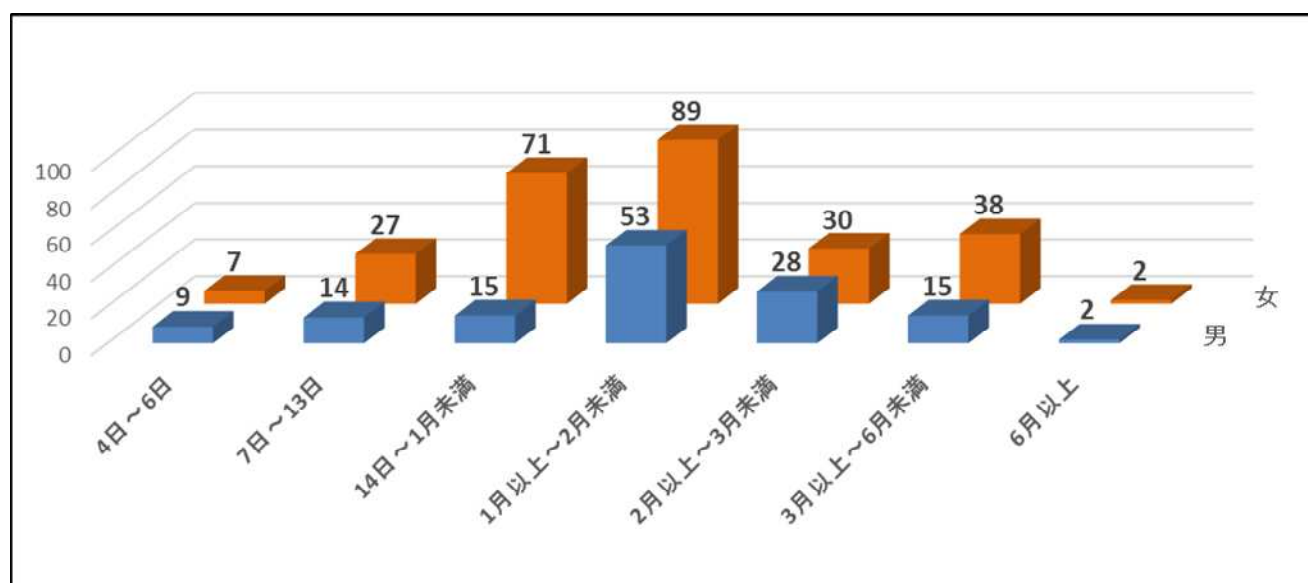
(Fig. 4) 転倒災害 年齢別 死傷災害発生状況 (令和4年)



(Fig. 5) 転倒災害 傷病別・性別 死傷災害発生状況 (令和 4 年)



(Fig. 6) 転倒災害 休業見込期間別・性別 死傷災害発生状況 (令和 4 年)



3. 高齢者の労働災害発生状況

(1) 高齢労働者の労働災害の増加

全死傷災害の中で高齢労働者(60歳以上)の死傷災害が占める割合について分析したところ、平成30年以降、全死傷者数の3割を超え、高止まりが続いている。(Fig.7)。

令和4年に発生した高齢労働者による死傷災害507人について、事故の型別に分類したところ、転倒が最も多く全体の35%を占める状況にあり、動作の反動、無理な動作(主に「腰痛」)については3番目に多く全体の11%を占める状況にある(Fig.8)。

(Fig. 7) 高年齢労働者(60歳以上)による災害発生件数と災害発生割合の推移



(Fig. 8) 高年齢労働者(60歳以上)「事故の型別」死傷災害発生状況(令和4年)

